

平成30年度 アナン学園高等学校 学校評価
(平成29年度の教育活動に対する学校評価)

1 めざす学校像

校訓に基づいた学校経営の実践と地域から信頼される学校づくりをめざす

- 1) 校訓を基に教育をおこなう
 - ① 感謝の気持ちを忘れず
 - ② 相手の立場に立って考えられる
 - ③ 何事にも礼儀を守り
 - ④ 社会に貢献する人間の育成
- 2) 新しい学校づくりに力を注ぐ
 - ① 普通科(学力の向上)の充実をはかる
 - ② 看護科(国家試験合格率の向上)の充実をはかる
 - ③ 調理科(校外実習・インターンシップ)の充実をはかる
 - ④ 専門教員を揃える(看護科・普通科・調理科)

2 中期的目標

1 確かな(学力向上への)取り組み

- 1) 進路総合コースの充実
 - ① 特別選抜クラスの新設
 - ② 進学特別補講の取り組み
 - ③ 2年次からのコース選択「アドヴァンス」「キャリア・進学」
 - ④ 中学校の振り返り学習
- 2) 教員の指導力向上の取り組み
 - ① 校内・校外研修の取り組み
 - ② 初任者への公開授業の取り組み
 - ③ リーダーの養成
- 3) 自学自習の習慣化に向けての取り組み
 - ① 平素の授業での指導の徹底
 - ② 集中力を身につけさせ、学習効果を上げさせる。
 - ③ 授業のみならず課題学習への重点的な取り組み
 - ④ 実力テストの実施
- 4) 進路指導の充実
 - ① 推薦・AOのみならずセンター試験に向けての取り組み
 - ② 就職(大手企業)指導の充実
 - ③ 受験対策及び国家試験対策
 - ④ 調理科のインターンシップや校外実習の充実
- 5) ICT教育の充実
 - ① 校内委員会の設置
 - ② 設備面の充実

2 豊かな心を育むための取り組み

- ① キャリア教育と人権教育の取り組み(進路保障)
- ② 普通科在籍者への取り組み(受験及び就職対策)
- ③ 看護科の臨地実習の充実
- ④ 調理科の校外実習、インターンシップの取組み

3 学校の組織力向上の取り組み

- 1) 学校自己診断の実施
- 2) 保護者との連携
- 3) 地域連携
- 4) 広報活動の充実

4 教職員の資質向上をめざした体制づくり

- 1) 授業力向上に向けた具体的(授業研究・研修等)な取り組み
- 2) 教科・進路指導部を中心に学力の向上と進路実現に向けた取り組み
- 3) 学科間・教員間の連携

3 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

平成30年度 学校評価について

平成24年度より本校では、保護者や生徒からの学校評価や教職員による学校評価を実施しています。

平成30年度のアンケートは平成30年2月に保護者・生徒・教員に対して行いました。

アンケートは各項目に対し、[A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまり当てはまらない D：まったくあてはまらない E：わからない]の5段階で評価し、A+Bを肯定的評価、C+Dを否定的評価としました。

下記の表は、保護者・生徒・教員のアンケート結果を(50%以上の肯定的、否定的評価)についてまとめたものです。

アンケート結果を謙虚に受け止め早々に取り組めるところは敏速に取り組むたいと考えています。保護者に対して、学校経営に関する情報については、文章配付や学校ホームページを活用し提供することに努めていきます。

最後に、この場をお借りして、アンケートにご協力頂きました方々にお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

【自己評価アンケートの結果と分析及び学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成30年7月]	学校評価委員会からの意見
<p>○ 生徒からの回答 (50%以上の肯定的評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのが楽しい。(64%) ・自分の学級は楽しい。(69%) ・この学校には、他の学校にない特色がある。(54%) ・授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。(50%) ・評価の仕方や基準について、事前に示されている。(51%) ・将来の進路や生き方について考える機会がある。(51%) ・命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。(50%) ・人権について学ぶ機会がある。(56%) ・学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている。(50%) ・授業などでコンピューターや プロジェクターを活用している(52%) 	<p>※生徒たちは、学校に来ることが楽しいと思っている。その要因は、クラスによき友人がいることや、先生に質問がしやすいところにある。</p> <p>※将来や、進路についても真剣に考えている様子がうかがえる。</p> <p>※命の大切さや、人権について学んでいることを意識している様子がうかがえる。</p> <p>※電子黒板等も有効的に使われている。</p>
<p>(50%以上の否定的評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はわかりやすく楽しい。(51%) ・授業では、実験・観察・実習をする機会がよくある。(53%) ・校長先生の話は興味深くわかりやすい。(55%) ・他の先生が授業を見学に来ることがある。(54%) ・学校のホームページをよく見る。(57%) 	<p>※学習面では基礎学力の向上、興味付等、やる気を起こさせるための取り組みが必要である。日々の学習が、将来の進路につながることを認識させることが必要。また、教員の指導力向上のため研修や研究授業、授業見学等の取り組みも必要である。</p> <p>※28年度より制服が変更になったので、制服に関する不満が多い。実用面での不満も多いので、29年度に委員会を立ち上げ検討し、30年度新入生より新制服になった。</p> <p>※教室やトイレ、空調等設備面での不満が多い。生徒に直接かかわる設備の整備が必要である。29年度は空調機器の入れ替え、修理、トイレの洋式化を徐々にではあるが行った、30年度も継続する。</p>

○ 保護者からの回答

(60%以上の肯定的評価)

- ・子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。(70%)
- ・子どもは、自分の学級が楽しいといっている。(72%)
- ・先生は子どもを理解している。(56%)
- ・この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。(71%)
- ・学校は教育方針をわかりやすく伝えている。(54%)
- ・学校は保護者の願いに答えている。(50%)
- ・学習の内容や進度等を、懇談や通信などによって知ることができる。(62%)
- ・通知表は、子どもの学力や達成度がわかりやすく表すように工夫されている。(74%)
- ・先生は子どもの評価を適切・公平に行っている。(78%)
- ・学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる。(76%)
- ・先生は子どものまちがった行動を厳しく指導してくれる。(71%)
- ・学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。(77%)
- ・子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。(70%)
- ・学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。(73%)
- ・文化祭や体育祭・宿泊行事などの学校行事は、積極的に参加できるよう工夫されている。(61%)
- ・学校は子どもに生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を育てようとしている。(66%)
- ・子どもは、学校に友達がいるといっている。(96%)
- ・学校は、子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている。(66%)
- ・地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に知らされている。(73%)
- ・学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。(61%)
- ・学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である。(74%)
- ・学校では子どもに関する個人情報を守られている。(85%)
- ・学校は、教育情報について、提供の努力をしている。(64%)

(50%以上の否定的評価)

- ・子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。(50%)
- ・学校のホームページをよく見る。(61%)

※アンケート結果からは子供は学校へ楽しく登校し自分の学級が楽しいと感じている。これは、生徒からの回答とも一致している。学校の教育への取組みにも理解していただいていることがうかがえる。また、教員の子供への評価や指導法に対しても理解していただいていることがうかがえるので、今後もより良い教育が行えるよう保護者や生徒の意見も検討し、努力していくことが必要だ。

※保護者の意見で生徒の授業に臨む姿勢や言葉遣いを危惧されているものがあった。校則の順守を徹底しなければならない。

※教員はわかりやすい授業の確立に努力しなければならない。

※施設・設備面は満足されていない意見もあった。ICT機器の導入や、教材の充実を図っているので、授業に役立てることで今後理解を得られると考える。空調も徐々に新しく更新している。

※アンケート結果の数字には表れていないが、意見として学校の教育活動に対して認知されていない意見があった。このことは、説明会等への保護者の出席率の低さからも伺える。保護者との連絡を密にし、学校の教育活動への理解を深めていただく努力が必要である。

○教員からの回答

(50%以上の肯定的評価)

- ・学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。(71%)
- ・この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある。(51%)
- ・教職員は生徒の意見をよく聞いている。(78%)
- ・学校は、教育活動全般について、生徒や保護者の願いに応じている。(68%)
- ・年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている。(62%)
- ・各教科において、教材の精選・工夫を行っている。(75%)
- ・この学校では少人数指導を取り入れるなど、指導方法の工夫や改善に努めている。(58%)
- ・生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。(54%)
- ・教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。(77%)
- ・この学校では、生徒指導において、家庭との連携ができています。(65%)
- ・生徒指導において、警察・少年サポートセンター・子ども家庭センター等の関係諸機関との連携ができています。(61%)
- ・生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。(58%)
- ・この学校は、奨学金教育教材等を活用して奨学金制度等について指導している。(61%)
- ・学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。(61%)
- ・生徒会活動を通じて、生徒が民主的な手続きを経て、主体的に活動できるよう学校全体で支援している。(58%)
- ・教育活動において、生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会をつくるよう配慮している。(58%)
- ・教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている。(54%)
- ・人権問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している。(77%)
- ・体罰やセクシャルハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている。(65%)
- ・校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。(52%)
- ・日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができています。(55%)
- ・この職場においては、教職員の服務規律への自覚が高い。(58%)
- ・事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。(61%)
- ・学校予算は一定のルールに基づき、適切に編成・執行されている。(55%)
- ・コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている。(58%)
- ・公文書の收受、発送、保管に対する管理がなされている。(55%)
- ・学校から保護者あてに公文書を発行するに当たって、校長が決裁するシステムが生かされている。(54%)
- ・指導要録の記入が年度内に適正に行われている。(65%)

※教員側は、それぞれの生徒の様子等を把握し、教員間で連携して教育活動に取り組んでいることが伺える。また、各家庭との連絡も密に取れている。

*教育活動について、保護者からも一定の理解は、得られていると考える。

※生徒指導や人権教育においても十分な指導がおこなえていると考えている。

※教育相談についても認知されているので、うまく利用されていることが伺える。

※電子黒板も授業で活用されているので、今後もICT機器の充実を図っていきたい。

<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。(55%) ・情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。(71%) 	
<p>(50%以上の否定的評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導内容について、他の教科の担当者と話し合う機会がある。(64%) ・思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。(65%) ・生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている。(52%) ・グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている。(51%) ・評価の在り方について話し合う機会がある。(51%) ・校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、生徒や教職員の間で話し合う機会がある。(61%) ・学校として、部活動の活性化について工夫している。(61%) ・教育活動において、生徒に社会規範や市民道徳を守る意識が育まれる機会をつくるよう配慮している。(55%) ・障がい者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している。(52%) ・学校運営に教職員の意見が反映されている。(58%) ・教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。(51%) ・各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。(55%) ・職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。(64%) ・この学校では、清掃がいきとどいている。(67%) ・校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。(52%) ・初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。(71%) ・教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。(64%) ・研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。(55%) ・保護者や地域の人々と接する機会を設けている。(65%) ・教職員は保護者会活動に参加している。(71%) 	<p>※生徒の学力差が大きく、個々の生徒にあった授業ができていない部分がある。朝学等で基礎学力の充実を図っているが、思考力を重視した学習活動を行えるよう、学習形態の工夫・改善も含め教師全体で考えていかなければならない。</p> <p>※他教科の教師と指導内容について話し合う機会を作る必要がある。</p> <p>※学校運営に教職員の意見も反映される環境作りが必要である。学校側と意思統一した共通理解のもと、生徒と接し、きめ細やかな指導に専念する努力が必要である。</p> <p>※研究授業や研修の報告会を行い、教師間で授業方法や指導法について検討していく機会を作らなければならない。</p> <p>※保護者とは情報を密にし、互いに忌憚のない協力的な意見を出し合って学力向上、心の教育、人づくりをめざしたい。</p>

4 本年度の取組内容及び自己評価

	重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	取組内容の自己評価
取 り 組 み ①	確 か な （学 力 向 上 へ の） 取 り 組 み	<p>1) 進路総合コースの充実 ① 2年次からのコース選択</p> <p>②進学特別補講の取組</p> <p>2) 教員の指導力向上の取組 ①校内・校外研修の取組</p> <p>②初任者への公開授業の取組</p> <p>③リーダーの養成</p> <p>3) 自学自習の習慣化に向けての取組 ①平素の授業での指導の徹底 ②集中力を身につけさせ、学習効果を上げさせる。</p> <p>③授業のみならず課題学習への重点的な取り組み。 ④実力テストの実施</p>	<p>1) ①適切なコース選択ができたか。指導計画は完成したか。</p> <p>②講師の手配は出来たか。計画どおり実施されたか。</p> <p>2) ①研修は実施されたか。</p> <p>②初任者への公開授業は実施されたか。</p> <p>③リーダーの養成は出来たか。</p> <p>3) ①平素の授業で指導の徹底はできたか。 ②集中力を身に付けさせられたか。</p> <p>③課題学習の徹底は出来たか。 ④実力テストは実施したか。</p>	<p>1) ① 2学期より予備調査を行い、懇談で保護者への説明、教員間での話し合いを経て、3学期に決定した。コース選択は適切にできたと考える。 指導計画は完成した。 ②講師の手配はできた。 補講は計画どおり実施したが、生徒の希望者が少なく、進学に対する意識づけが必要だ。</p> <p>2) ①校内研修は昨年度に比べ、回数は減ったが、ICT教育の充実のため、ICT教育についての研修を中心に行った。また、人権教育の研修も行った。 生徒からの授業アンケートを行った。教員はアンケート結果を活かしてほしい ②公開授業は行っていない。授業法や指導方法の強化のためにも公開授業は行わなければならない。</p> <p>③それぞれの学科でリーダーは育っているが、全体のリーダー養成が必要。教職員間での多面評価を導入したので、リーダーの養成に活かしたい。</p> <p>3) ①自学自習の習慣化をめざし、平素の授業で指導は行った。 ②集中力も含め、自学自習の習慣化はできていない。今後も継続した指導が必要。 ③課題学習は朝学等で習慣づけられている。 ④実力テストは普通科・調理科では3回、看護科では5回行った。専攻科では模試を5回行った。</p>

		<p>4) 進路指導の充実 ①推薦・A0のみならずセンター試験に向けての取組</p> <p>②就職(大手企業)指導の充実</p> <p>③受験対策・国家試験対策</p> <p>5) ICT教育の充実 ①校内委員会の設置</p> <p>②設備面の充実</p>	<p>4) ①センター試験に向けての取組を行ったか。</p> <p>②就職指導は行ったか。</p> <p>③受験対策・国家試験対策は行ったか。</p> <p>①校内委員会の設置はできたか。</p> <p>②設備面は充実したか。</p>	<p>3) 4) ①進学特別補講で行っている。</p> <p>②普通科では、進路説明会を2回行った。看護科では病院対象の就職説明会を行った。</p> <p>③普通科では、受験対策を進学特別補講で行った。国家試験対策は看護科専攻科に模試や弱点補強講座、国試解説授業、過去問解説を行った。</p> <p>①校内委員会の設置はでき、会議も何度か行った。電子黒板を授業に活かす教員が増えた。</p> <p>③30年度中に各教室にプロジェクターの設置、校内WIFI化が決定し、31年度より本格的にICT教育を行う。</p>
取組み②	豊かな心を育むための取組み	<p>①キャリア教育と人権教育の取り組み。</p> <p>②普通科・調理科在籍者への取り組み</p> <p>③看護科の臨地実習の充実</p>	<p>①キャリア教育と人権教育は行ったか。</p> <p>②受験及び就職対策は行ったか。</p> <p>③臨地実習の拡充と整理は行ったか。</p>	<p>①キャリア教育・進路説明会を3回行った。人権教育は2回行い、生徒アンケートでも認識されていた。</p> <p>②受験対策は進学特別補講で行った。就職対策は進路説明会を行い生徒の意識づけに役立った。</p> <p>③実習病院の受け入れ人数を調整、新規受け入れ病院も増やし拡充に努めた。</p>

取組み③	学校の組織力向上の取組み	<p>1) 学校自己診断の実施</p> <p>2) 保護者との連携</p> <p>3) 地域連携</p> <p>4) 広報活動の充実</p>	<p>1) 自己診断を行ったか。</p> <p>2) 保護者との連携をし、互いの理解度はましたか。</p> <p>3) 地域との連携はできているか。</p> <p>4) 広報活動は充実していたか。</p>	<p>1) 保護者、生徒及び教員にアンケート実施を行った。アンケート集計と考察はできた。</p> <p>2) アンケート結果にも表れているが、連携をし互いの理解度が増しているとは言い難い。学科通信の回数を増やすなど、学校への関心がより高くなるような方法を検討し、実行することにより連携できると考える。今後は、連携し互いの理解度が増すよう努めなければならない。</p> <p>3) 昨年度より、教職員が校門であいさつ運動を実行し、地域との連携を高めている。ミュージカルコースや調理科の発表会を通じて、地域との連携を考えている。</p> <p>4) ホームページは充実した。教員の塾訪問も行っている。オープンキャンパスも全教職員で取り組んでいる。入試広報室も積極的に説明会参加や広告の拡充で広報活動は充実している。</p>
取組み③	教職員の資質向上を目指した体制づくり	1) 授業力向上に向けた具体的(授業研究・研修等)な取り組み。	1) 授業研究・研修を行ったか。	<p>1) 初任者を含めて校内研修を行うことができた。授業研究はできていない。</p> <p>今後は、授業研究を積極的に取り入れなければならない。</p> <p>授業アンケートを行い、教師は自分に対するアンケートを利用し、授業の向上に役立てることが必要。</p>

		<p>2) 教科・進路指導部を中心に学力の向上と進路実現に向けた取り組み。</p> <p>3) 4) 学科間の連携、教職員間の連携</p>	<p>2) 学力向上と進路実現に向けた取り組みはおこなえたか。</p> <p>3) 4) 連携はできたか。</p>	<p>2) 生徒への取り組みは行えたが、教員に対してはあまりおこなえていない。教員への進路説明会等を行わなければならない。</p> <p>3) 4) 学科ごとの特性を生かしつつ、共通の行事をとおして生徒や教師が交流することによりお互い理解している。</p> <p>教職員間は、多面評価を取り入れ、自他ともに理解し連携できるように努めている。</p>
--	--	---	---	--